

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991800018		
法人名	社会福祉法人 いわれ会		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺は畑や自然に囲まれ、静かで穏やかな環境にあり、ホーム内は広々とした空間になっており、談話室も窓が多く開放的なつどいのスペースになっています。  
畑作業に来られる近隣の住民の方から笑顔であいさつして頂き、お花や野菜を頂くこともあり、とてもあたたかく見守られています。利用者様の希望や思いに添って、様々な行事を取り入れ日々の生活の中で役割や、楽しみを持った暮らしを共に過ごせる関係を築いています。  
勤務年数の長い職員を配置しており、豊富な知識と経験を活かして、お人ひとりのニーズに合わせた支援を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は川西町北部の自然に囲まれたのどかな環境にあり、デイサービスも併設されています。地域の行事にも積極的に参加され、近隣に住む人たちとの交流も十分に図られています。事業所内は広々とした空間になっており、利用者が多くの時間を過ごす広いフロアは明るく、空調も適温に設定され、居心地よく過ごせる空間になっています。また、季節感を取り入れた壁画が飾られて、生活感を出す工夫が施されています。トイレの便器や廊下等は毎日の手入れが行き届き、ピカピカに光っていて清潔感があり、利用者が快適に過ごせるようになっています。さらに、職員が利用者の見守りの方法を考えながら、昼間は玄関の鍵をかけずに、安全面に配慮した自由な暮らしを支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	検討した理念を、目のふれやすい場所に複数に掲示し、職員が理解し共有することで、日頃の実践に繋げている。	事業所の理念を玄関・フロア・事務所に掲示して職員全員で共有されています。また、現状に合った理念に作り変えることも検討されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェやイベントなど、地域事業への参加や、ボランティアの訪問などで交流を持ち、地域と結びついた生活環境を大切にしている。	地域の行事にも積極的に参加され、近隣に住む人たちと挨拶を交わしたり話をする等、ふれあう機会が多いです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生の見学や、中学生の職場体験、看護学校の実習受け入れで、事業所の紹介や、認知症高齢者への接し方についての説明を行う。一般の方の見学、相談は随時受け入れ、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催し、活動状況を報告し、評価を受ける。必要な要望、助言等を聞き、状況の把握に努めて、改善することでサービスの質の向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催されています。自治会、町・地域包括担当者、家族の参加があり、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見・助言をもらうようにされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で報告を行う以外にも、入居者の困難時や、その他の対応についての相談は、いつでもできる体制にあり、連絡は密に取り合っており、協力関係は保っている。	町の担当者とは運営推進会議だけではなく、様々な機会を通じて関わりを持ち、事業所の取組を具体的に伝え、連携を深めておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関やその他の特別な施錠はしておらず、自宅での生活に近い環境を整えている。職場内で、身体拘束廃止の研修会に参加し、知識と理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は法人が主催する研修会に参加し、権利擁護や「指定基準における禁止の対象となる行為」を理解し、職員の見守りの方法を徹底して、昼間は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で、虐待防止に関する研修会を開催し、高齢者虐待の知識を身につけ、職員同士も意識を高め、虐待のないケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度を学ぶ機会をもち社会福祉協議会や、地域包括支援センターとの連携を保ちながら、現在活用している入居者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時に、ご家族の疑問点にはその都度お答えし、納得を図っている。話し合いの中で、不安を聞きだし丁寧に説明することでご理解頂き、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見や要望を聞いたり、普段の面会時にも利用者様、ご家族とお話しする時間をもち、意見箱の設置など意見しやすい環境づくりを行い、運営推進会議でも報告を行っている。	年1回開催される家族会や運営推進会議等で何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めておられます。また、出された意見は会議等で話し合い、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度、会議を開催し、職員一人一人が意見交換や提案できる機会を設け、それを活かせるように取り組んでいる。	毎月1回開催される会議等で職員の意見や要望を聞くようにして働く意欲の向上や質の確保に努めておられます。新規職員には随時要望や意見を聞くように心がけておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されており、管理者は法人の主任、管理者会議で、現状や実績を報告する。衛生委員会を設置し、勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修でケアの向上に取り組む他、外部研修へ積極的に参加する機会をもち、習得した知識を報告する場をつくり、共有することで、日頃のケアへとつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、他事業所との交流をもち、情報を集め、知識や視野を広げ、日々のケアに活かす事で向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人の心身状況や、生活歴などの情報収集を行い、それをもとに関わり、ご本人の想いに耳を傾ける事で、不安や要望を聞きだせる環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、電話にてご家族の困りごとや要望に耳を傾けながらコミュニケーションを大切に、その後の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる支援が他にもある場合は、具体的な話し合いを行い、ご本人とご家族の意向を把握し、現状に適した説明や、サービスの提供を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も、同じテーブルで食事を共にし、会話の時間を多くもち、家族のように関わっている。家事の分担など、可能な役割をもってもらい、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にお話する時間を持ち、現状の報告や、ご家族の想いを聞き、理解を深める事で、ご本人を共に支えていく姿勢を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンや併設している同法人のデイサービスに顔を出し、知人や友人と会話の時間を持ち、日頃より職員とも会話の中に取り入れ馴染みの関係が途切れないように支援している。	利用者が、併設のデイサービスへ友人、知人に会いに行ったり、継続的な交流が出来るように働きかけておられます。また、墓参り等を続けている利用者もあり、一人ひとりの生活習慣を尊重した支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティーで、一体化して交流を楽しむ時間を持ったり、個々の特徴を理解した上で職員が間に入り、会話することにより関わりあえる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、ご家族からお手紙やお電話をいただくこともあり、相談があれば支援するなど、協力体制を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や関わりのある方から情報を集めたり、利用者様との会話の中で、思いや希望を把握する。意思疎通の困難な方は、表情や思いをくみ取るように心掛けている。	職員は日頃の利用者との会話や表情から、意見や要望を推し測ったり確認をされています。特に食事の時間等は利用者の意向が把握できるので、利用者と接する時間を多く取るように工夫されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に聞き取りを行うほか、ご家族やケアマネージャーなど、ご本人と関わりのある方からお話を聞き、情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の表情の違いや、体調の状態など小さな変化の気づきは、記録して引き継いでいくことで把握し、全職員が同じ対応をすることで現状を維持する個々のケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体での把握と、担当者を配置し、利用者会議を開き、ご本人、ご家族の意向を反映し、現状に適した介護計画を作成している。	利用者や家族には日頃の関わりの中で、意見や意向を確認して、職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や変化について、個人別にファイルに記録し職員間で情報を共有して、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に変化があれば、その都度ご家族に説明し、話し合いの場をもち共有してご家族の協力体制を整えながら、ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや民生委員に来所してもらい、行事を行ったり、地域の行事への参加や、楽しみを多くもてるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医への受診を継続して頂き、病院への受診はご家族に対応していただける様に呼びかけている。近況報告を行い、看護師も含め必要であれば同行し、連携を図っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援されています。毎月1回協力医の訪問や併設しているデイサービスから看護師の訪問もあり、健康管理も充実しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定は看護師が行っており、個々の利用者様の状態や気づきの変化を伝え、助言を受けながら、受診が必要な際は看護師からご家族、担当医に状況説明を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院中は訪問しご家族や担当看護師からお話を聞かせていただき、いつでも対応できる体制に努め、退院時にはご家族、担当医等関係者と、退院後の方向性について話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に「重度化した場合における対応にかかる方針」について説明を行い同意を得ている。体調の変化がある場合は看護師も含めた話し合いや説明を行い、必要なサービスにつなげていく支援を行っている。	入居時に利用者や家族等から重度化に伴う確認を行い、事業所が対応出来る可能な限りの支援について説明を行っておられます。また、職員は研修会に参加して重度化した場合の対応方針の共有を図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、急変や事故発生時に落ち着いて対応できるように、定期的な研修会や勉強会に参加し、訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時や緊急時に備え、全館合同での避難訓練を年2回、それとは別に夜間想定を1回実施している。職員緊急連絡網や関係者の一覧表を整備し、近隣住民への協力も呼び掛けている。	併設しているデイサービスと共同で年2回の避難訓練と水害に対する訓練を行っておられます。また、事業所独自で夜間を想定した避難訓練も実施され、常に災害に対する危機意識を持たれています。	職員だけの訓練では限界がありますので、地域の協力体制について、運営推進会議等で引き続き粘り強く呼びかけをされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の重要性を認識し、適正な保護のために、職員間でも意識して対応に努めている。馴染の関係でありながらも、なれ合いにならないような言葉かけや対応を行っている。	研修会に参加して個人情報の重要性の認識を深めながら、利用者一人ひとりの尊厳と権利を保障し、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で、会話の時間をつくり、思いや希望を把握し、会話以外にも、表情から思いをくみ取り、日常生活の中で様々な選択ができる場面をつくり、決定していただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを可能な限り、家で過ごされていたリズムに近づけるようにしておりその日の体調や気分など意に添える支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のコーディネートと一緒に考えたり、ご家族からも情報を得て好みを把握し、その人らしいおしゃれのお手伝いができるように支援している。2ヶ月に1度、訪問カットサロンを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、希望を聞きながら手づくりランチやおやつづくりをメニューに取り入れ、お一人ひとりが可能な作業を補助しながら行っている。準備段階でも会話を楽しんで、食事を共にしている。	食事に関する一連の作業を利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にやってもらえます。また、職員と利用者が同じテーブルを囲み、同じものを食べて楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立で、バランスのとれた食事を提供している。食事、水分量は個々に把握しており、水分量の少ない方は好みのものを取り入れながら必要な水分量を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とトイレ通いの後は、毎回うがい手洗いをしており、義歯を使用している方は、許可を得て、夜間預かり、洗浄剤で洗浄し清潔を保っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別のトイレ案内を行い、失敗の回数を減らしている。そのため、入居してから、紙パンツや尿とりパットを外して生活できている方が多数おられる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら生活リズムに合わせた支援をされています。また、出来るだけトイレで排泄できるように排泄の自立に向けた支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄習慣を認識して、タイミングに合わせてトイレ通いをして自然排便を促し、食物繊維を多く含んだヨーグルトやマンナンライスなどを提供し、個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は15時以降の入浴だが、希望に沿った時間や回数の利用対応をしている。入浴を嫌がられたり気分が優れない時は無理せず時間やタイミングを図り、個々のペースでゆっくり入浴して頂く支援をしている。	利用者の入浴したい日や時間に合わせた支援をされていますが、基本的には2日に1回の15時以降の入浴支援をされています。また、利用者の希望に合わせた足浴もくつろいだ気分で楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ使い慣れた寝具を持ち込んで頂き、温度調整や照明コントロールをして、安眠できるように支援している。起床や就寝時間は個々の習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも薬の内容を確認できるようにファイルを作成し、服薬処方時や変更時はその都度入れ替え内容の確認、把握をしている。少しの症状の変化にも気づけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や聞き取りの中で、生活習慣を把握し、個々に応じた役割を持つたり、好みの作業を取り入れたり、外出支援をすることで、気分転換を図り、その方らしく過ごしていただく環境づくりに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のその日の状態や希望に沿って、可能なかぎり、外出支援を行っている。墓参りや帰宅の希望があれば、ご家族にも協力を頂いている。買い物や演劇など、お一人ひとりの好みに合わせた外出支援を行っている。	法人のカフェ(ボランティアのヨガ・音楽演奏等)に月1回参加したり、戸外でのバーベキューやお弁当持参の夕涼み会も開催され、利用者や家族から好評を得られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理している方と、職員がご家族と相談し、金銭管理をしている方もいるが、買い物や、認知症カフェに出かけた時には、ご本人に支払をしていただくなど、個別に応じて使えるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙や年賀状を一緒に作成して、友人やご家族に郵送する補助を行ったり、携帯電話を所有されている方は、他の方に配慮して頂きながら、自室で自由にご家族と電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁画を毎回皆さんと作成して飾っており、生け花や植物をフロアや玄関など数か所において、季節感を出している。フロアは明るく、食事時はリラックスできる音楽を流して、居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	利用者が多くの時間を過ごす広いフロアは明るく、空調も適温に設定され、居心地よく過ごせる空間になっています。また、季節感を取り入れた壁画が飾られ、生活感を出す工夫が施されています。さらに、トイレの便器等はピカピカに光っていて清潔感があり、快適に過ごせる配慮がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を配慮し、気の合う利用者同士が会話を楽しんで過ごせる工夫をしたり、個々の居室や共有スペースで、テレビ視聴をしたり、お一人ひとりのペースを中心に過ごせる空間づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具を持ち込んでいただくようご家族にも協力をお願いしている。趣味、好みの置物やご家族の写真を目のつく所に飾ることで、安心して過ごしていただけのように工夫している。	利用者が家で使用していた布団や枕などが持ち込まれ、家とのギャップを感じずに過ごせる空間になっています。また、持ち込みの少ない利用者には、職員と家族が相談しながら温かい雰囲気を醸し出すような居室づくりに取り組んでおられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで手すりを配置しており、お一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるようように工夫して、生活リハビリを支援している。		